当たり前の毎日を守る為に

JAオホーツク網走青年部

ＪＡオホーツク網走青年部とは？

• ５つの委員会から構成され、部員はいずれかに所属

- **総　会**
  - 部員数　１２３名
  - **役員会**
    - 部長・副部長・監事
    - **農政委員会**：勉強会、出前授業
    - **農産委員会**：栽培試験、視察研修
    - **畜産委員会**：勉強会、視察研修
    - **広報委員会**：地元祭野菜販売、広報誌作成
    - **企画委員会**：地域貢献活動、交流会、商品開発

ＪＡオホーツク網走青年部とは？

- 食育事業　親と子の「ふれあいアグリスクール」
  - 当青年部の基幹事業
  - 地域内小学生親子を対象
  - 平成２２年に名称・内容を変更し、毎年５回開催（植付、収穫、調理加工、施設見学　等）

- 消費者と直接ふれあう機会が少なく、子どもたちと直接ふれあうことが出来る貴重な事業
- 楽しい、笑顔、「おいしい！」の一言、元気な姿

↓

- 改めて農業への“やりがい”“活力”をもらうことが出来る。

当たり前の毎日とは？

- 子どもたちの笑顔、「おいしい！」の一言
- 子どもが男３人。家に帰るとやんちゃでやかましい。
  →でもそれがいい。
- 仕事中、唯一の楽しみである奥さんのおいしい手料理。
  →逆に夏場に太るなんてことも、、、
- 青年部の仲間との交流会や打ち上げ。　　　　　　等

当たり前になってしまっていないか？

当たり前の毎日とは？

- 農業者だけでなく、すべての人に。

それぞれの「当たり前の毎日」がある！

農業を取り巻く情勢

- 国際紛争や急激な円安の進行による肥料・飼料の高止まり
- 農業者の減少（高齢化、担い手不足）
- 気候変動等による自然災害の多発や栽培適地の変化
- 家畜の伝染病、作物病害虫の発生　等

“ポリシーブック”を基に活動

- 勉強会（施肥設計の見直しによる生産コストを減少させる為）
- 視察研修（新技術・スマート農業の先進地視察、生産性向上の為）
- 地域貢献活動

（地域との結びつき強化、農業への理解を深めてもらう為）　等

全ての事業が

農業者の「当たり前の毎日」を守ることに繋がる

消費者へ安心・安全な農畜産物を届ける。

消費者、すべての人の

「当たり前の毎日」を守ることに繋がる！！

ポリシーブックとは？

- 「政策提言集・行動方針集」
- 営農していくうえで抱えている“課題”　“疑問点”など部員同士で問題を出し合い、解決策を考える。
  - 自助：自分たちで取り組み、解決する。
  - 共助：ともに協力し、解決する。
  - 公助：行政等に政策として要請する。

ＪＡオホーツク網走青年部では

部員から部員、先輩から後輩へ「想いを繋ぐ本」

スローガン「**当たり前の毎日を守る為に**」

当たり前の毎日を守る為に

- 生産者が元気に「当たり前の毎日」を過ごす事！！
- 毎日当たり前のように、大切な家族や仲間と農作業をしている。
- もしちょっとした油断で農作業事故を起こしてしまったら、その当たり前の毎日は二度と戻らなくなるかもしれません。

北海道での農作業事故件数（H 23~R2）

- 負傷事故件数　　　22,700件

　負傷事故の内訳

　家畜との接触３６.５％　**<u>農業機械</u>**２９.7％

　転倒・高所転落１６.３％　その他１７.４％

- 死亡事故件数　１７７件

　死亡事故の内訳

　<u>農業機械</u>７５.1％　転倒・高所転落１０.7％

　家畜との接触３.４％　その他１０.８％

- 死亡リスクは全産業の１２倍以上　建設業の３倍

農作業安全との出会い

- 冬になると除雪のアルバイトに行く部員も多く、建設業界に触れる場面があり、ＫＹ（危険予知）運動やヒヤリハット等作業前後に事故を防ぐための安全対策がしっかりとされている事に気が付いた。

勉強会（H30年）

- GAPの導入手順と生産者に対するメリットについて
- GAP＝食品の安全確保と思っていた。
- GAPは「食品安全・環境安全・労働安全」が柱
  労働安全も含まれている事を学んだ。

当たり前の毎日を守る為に

農業は家族労働が基本、もしも農作業事故が起きてしまったら

大切な家族や仲間が **“被害者”** や **“加害者”** に！

そんな悲しいことが起きてしまわない様に
大切な家族や仲間の笑顔を守る！より良い農業経営を実現するために！
安全作業の為の知識を身に着ける必要がある！

令和元年に結婚した１人の部員の提案（想い）がきっかけで
農作業安全への取り組みに力を入れることとなった。

青年部員への意識付け（令和元年）

- 講師：農研機構、北海道農作業安全運動推進本部
- 農業機械の事故事例から見えた「本当に効果のある」安全対策について
- 農作業事故が減らない背景
  - 労働安全に対する法規制が適応されない
  - 安全管理の指導を受ける義務などがない
  - 安全確保が不十分である事　等

- 補助が必要な場面でも一人で作業せざるを得ない
- 一人で事故を起こした際に発見が遅れ重篤化する恐れがある
- 実際の事故事例を基にどのように事故を減らしていくか、対処方法や対応等について部員への問題提起、意識付けを行った。

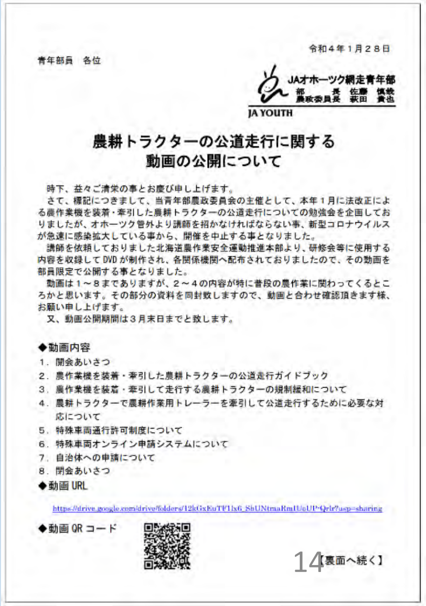
青年部員への意識付け（令和２年）

- オホーツク管内において、農作業による死亡事故が相次いで発生、個々の経営はもとより地域農業の安定的な振興を図る上で、農作業事故の防止が重要な課題となっていた。
- 農作業事故ゼロ推進キャンペーン（令和２年～４年の３か年）
  - オホーツク地区農作業安全運動推進本部
    - オホーツク総合振興局、連合会北見支所等で組織
- オホーツク農作業安全フォーラム（紋別市・網走市）が開催
  - JA職員によるラジオCMでの事故防止呼びかけ
  - 事故啓発ステッカー、ポスターの配布

青年部員への意識付け（令和３年）

- 講師：北海道農作業安全運動推進本部
- 農作業機を装着・けん引した走行の規制緩和
- 農耕トラクターの公道走行に関する勉強会
- コロナ禍の為、部員向けに動画を発信

- 部員の父親から
  - 規制緩和について広く周知する必要があると思っていた。
  - 動画から法改正を学んだ青年部員や案内を目にした家族が知識を共有し普及させていくことは大変良い取り組みだ



令和４年１月２８日

青年部員　各位

JAオホーツク網走青年部
部　　長　佐藤　慎乾
農政委員長　荻田　貴也
JA YOUTH

農耕トラクターの公道走行に関する動画の公開について

時下、益々ご清栄の事とお慶び申し上げます。
さて、標記につきまして、当青年部農政委員会の主催として、本年１月に法改正による農作業機を装着・牽引した農耕トラクターの公道走行についての勉強会を企画しておりましたが、オホーツク管外より講師を招かなければならない事、新型コロナウイルスが急速に感染拡大している事から、開催を中止する事となりました。
講師を依頼しておりました北海道農作業安全運動推進本部より、研修会等に使用する内容を収録して DVD が制作され、各関係機関へ配布されておりましたので、その動画を部員限定で公開する事となりました。
動画は１～８までありますが、２～４の内容が特に普段の農作業に関わってくるところかと思います。その部分の資料を同封致しますので、動画と合わせ確認頂きます様、お願い申し上げます。
又、動画公開期間は３月末日までと致します。

◆動画内容
1．開会あいさつ
2．農作業機を装着・牽引した農耕トラクターの公道走行ガイドブック
3．農作業機を装着・牽引して走行する農耕トラクターの規制緩和について
4．農耕トラクターで農耕作業用トレーラーを牽引して公道走行するために必要な対応について
5．特殊車両通行許可制度について
6．特殊車両オンライン申請システムについて
7．自治体への申請について
8．閉会あいさつ

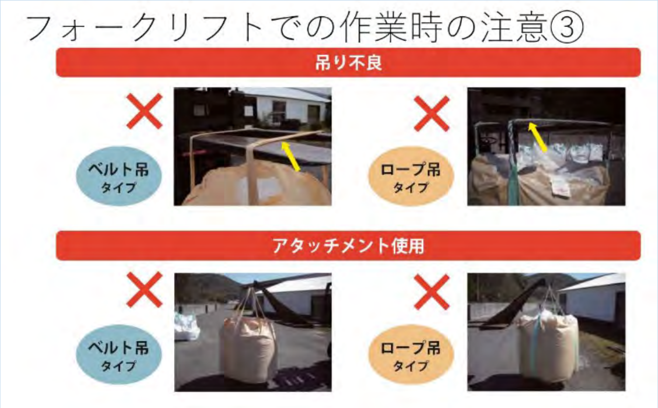
◆動画 URL
https://drive.google.com/drive/folders/12kGxEuTF1lx6_ShUNtmaRm1UoUP-Qrlr?usp=sharing

◆動画 QR コード

【裏面へ続く】

青年部員への意識付け（令和４年）

- 講師：ホクレン北見支所（基調講演、意見交換）
- 農作業事故ゼロ推進キャンペーン（最終年）
- 令和５年以降、農業現場が主体となって農作業安全への取り組みを進める為のキックオフとして
  - フレコンバック等の資材の耐久性
  - 悲惨な事故写真
- 改めて農作業安全は農家にとって**１丁目１番地！**



青年部員への意識付け（令和４年）

- ㈱クボタの協力もあり、日本農業新聞に取材を依頼
- この取り組みをきっかけに各地で農作業安全への活動を活性化したい。

2023年2月23日

農作業事故ゼロへ　安全対策　地域ぐるみで　ＪＡオホーツク　網走青年部

保存

| 地方版

Twitter　Facebook　Line　Mail

意見交換会６０人が参加

ＪＡオホーツク網走青年部は、地域ぐるみでの農作業安全対策を進めている。農作業安全を個人の努力に任せるのではなく、地域の課題として農業者が共に考えることで、農作業事故ゼロを目指す。

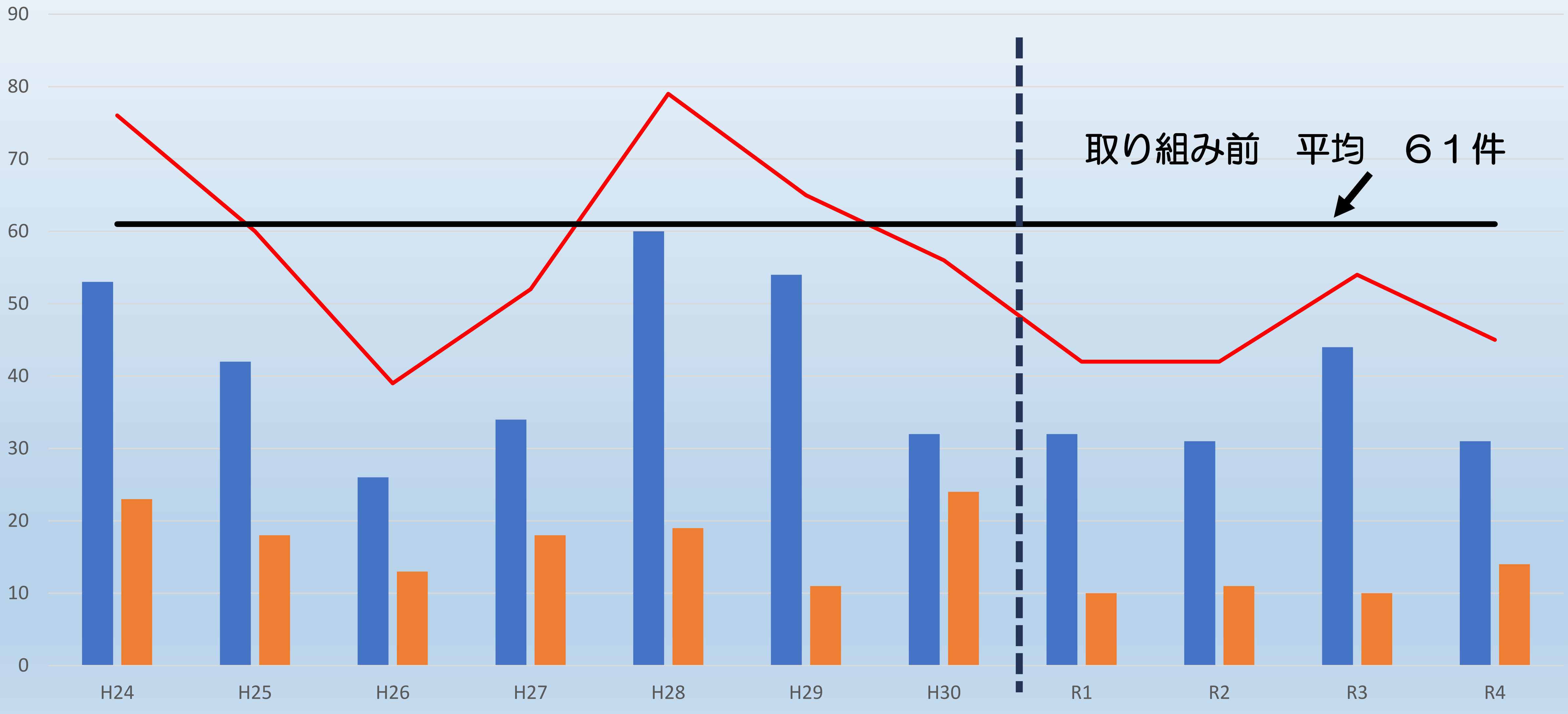
対策の一環として、同青年部とホクレン北見支所は１７日、網走市で農作業安全をテーマに意見交換会を開いた。青年部の伊勢谷浩一部長や同支所営農支援室の橋本修市主任技師ら６０人ほどが参加した。

同青年部は以前から啓発運動に取り組んでいたが、本年度からオホーツク農作業安全運動推進本部との連携を強化。地域包括型の対策に着手した。

意見交換で、橋本主任技師は、特に死傷者が多い農業機械の注意点や点検でエンジンを停止することの重要性を指摘した。事故に遭遇した事例で損傷した悲惨な手足の写真や、管内で事故を起こした農業者の思いなどを紹介した。

注意の旗のデザインを示し事故防止を訴える伊勢谷部長（網走市で）

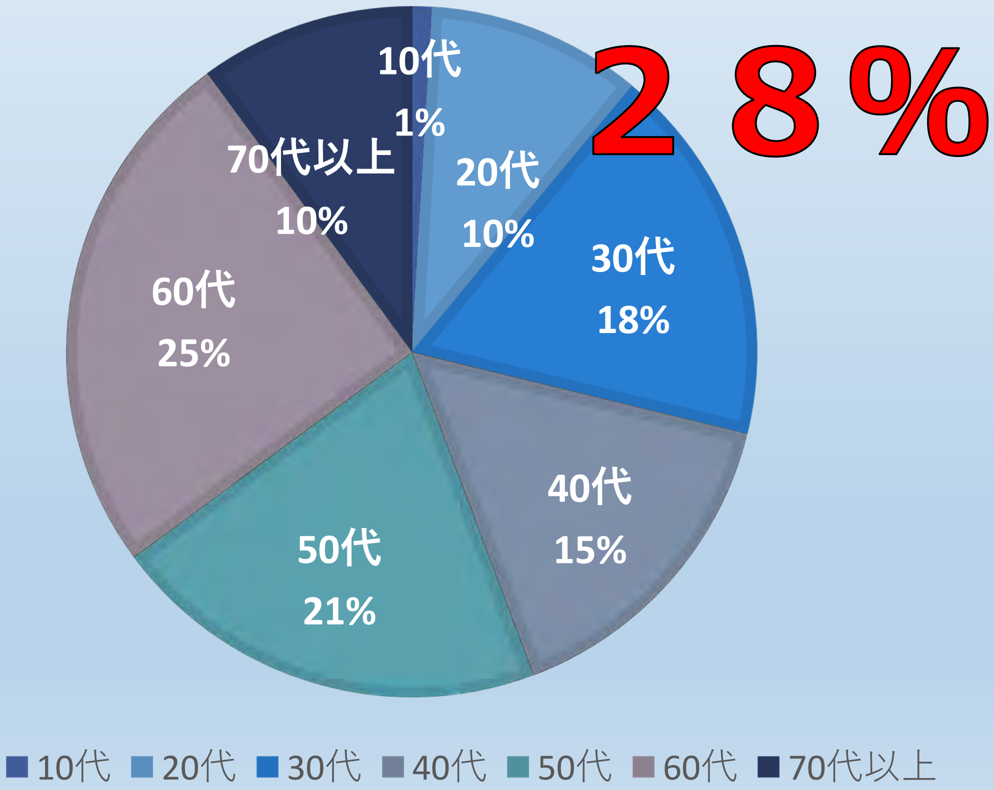
ＪＡオホーツク網走　労災事故発生件数



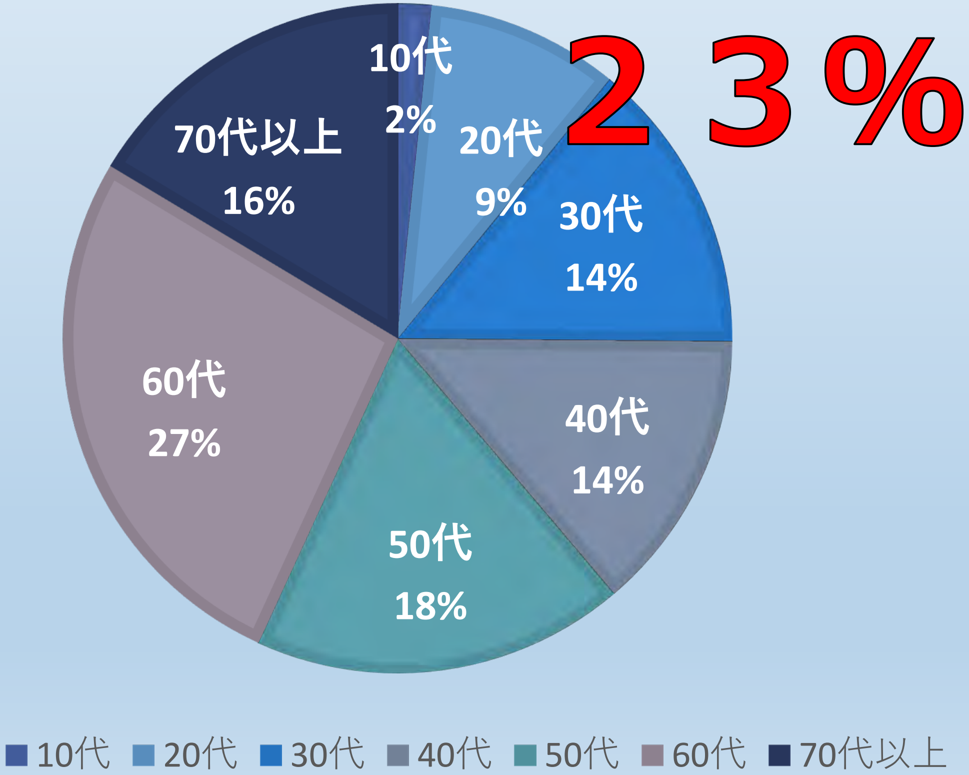
※参考　R5年　４１件　R6年　３８件

ＪＡオホーツク網走　年代別　労災事故発生件数

取り組み以前（H24～H30）



取り組み後（R1～R4）



ＪＡオホーツク網走青年部　ポリシーブック

目　次（R5年）

- 農業者・担い手の減少について
- シストセンチュウ対策ついて
- 感染症対策（コロナ等）について
- 農業政策について
- 農畜産物の消費拡大について
- 青年部活動について
- 情報発信について

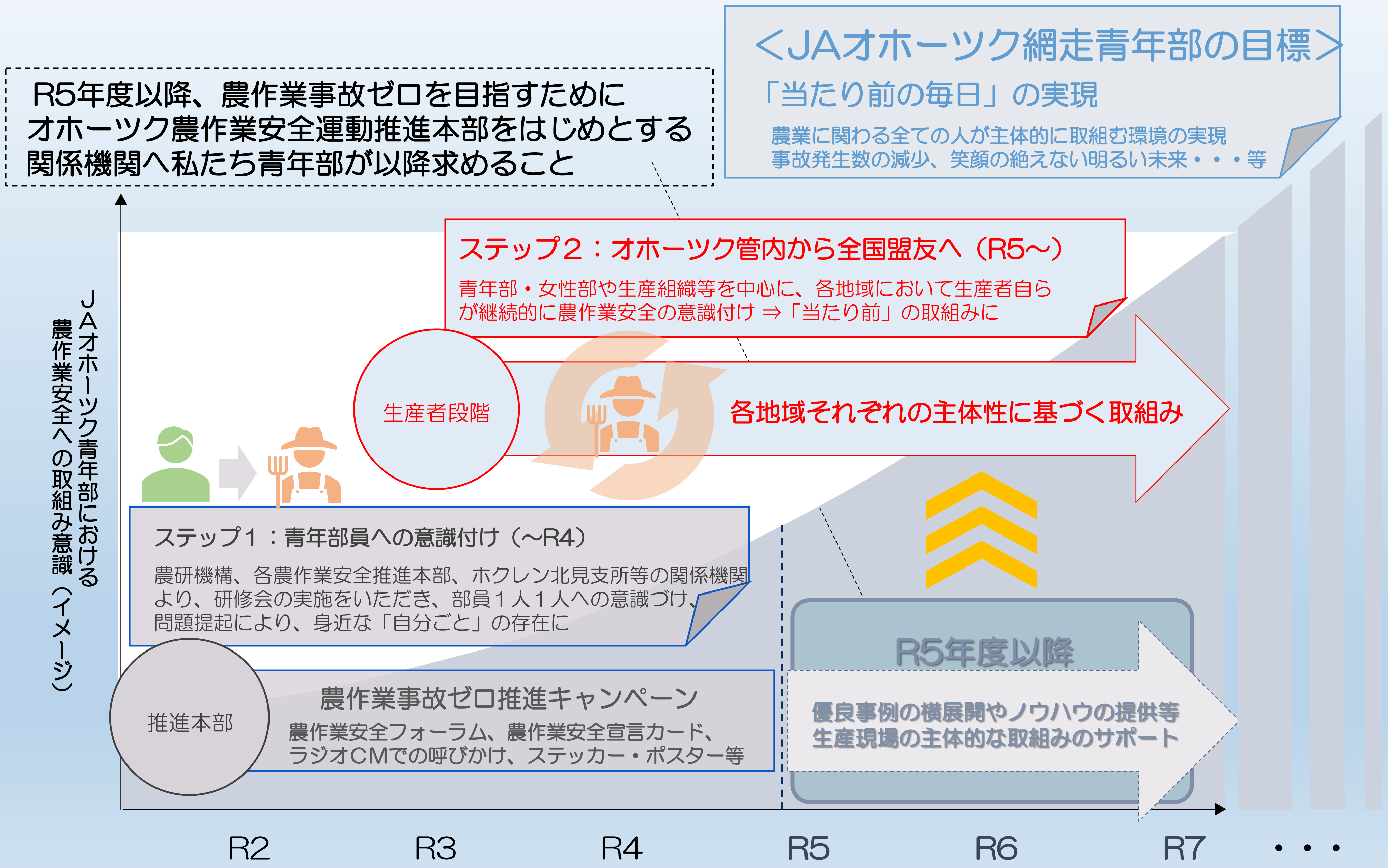
令和５年度

ＪＡオホーツク網走青年部

ポリシーブック

JA YOUTH

JAオホーツク網走青年部　取り組みと今後の展開



オホーツク管内から全国へ（令和５年）

- ケガをしない事だけが農作業事故ではない。
  - 農薬散布中の飛散や風によって飛沫した農薬を吸引してしまう
  - 目的外の作物に付着し農薬残留による健康被害を防止する

【農業者】

- 注意を促す、風向きや強さを確認し防除の目安

【JAへ要請】

- 組合員全戸に配布する為、農協へ補助を依頼。
- 全額補助、組合員全戸配布

オホーツク管内から全国へ（令和５年）

【一般の方（消費者）】
- 農業への理解を深めてほしい
- 農薬ドリフトを正確に伝える為、部員がイラストをデザイン

「ドリフトって車のドリフト走行じゃないんですね。」との声も

オホーツク管内から全国へ（令和５年）

【３０秒CMの作成今までやこれからの未来を守ること】
- それこそが農家が働く「本当の意味」
- １人でも多くの盟友にオホーツクの想いを届けたい！

【青年部　活動実績発表大会】
- オホーツク地区代表、北海道代表、東北・北海道ブロック大会へ

【各種メディア】
- ホクレンGREEN　WEB、農家の友
- 日本農業新聞、家の光「地上」
- JA青年部リーダー養成研修　特別講師
- 全青協ポリシーブック研修　特別講師　等

JAオホーツク網走青年部

令和６年度の取り組み

- 農作業安全係を設置

【目　的】

- 事故の背景を詳しく知ることで、自分たちの実態に合った、勉強会や啓発資材を作成する。

【背　景】

- 農作業安全に関する知識・意識付けは行った
- 依然として農作業事故が無くならない現状
- 事故の状況や作業内容は“個人”　“農協”　“地域”によって違う

本当に効果的な農作業安全啓発も“個人”　“農協”　“地域”によって違う

令和６年度の取り組み（勉強会）

- 講師：農研機構
- 事例から見た「生活と経営を支える」事故防止策
- 一緒に作業をする機会の多い女性（女性部）に声かけ
- 同じ作業でも、男性目線、女性目線で違う防止策が生まれた
- JA共済連で貸出を行っているVRゴーグルを使用し、事故を疑似体験
- 農作業事故を「他人事から自分事」にする機会

令和６年度の取り組み（６月事故調査）

- 同行：農研機構、北海道農作業安全運動推進本部

【事故の背景】

労災報告

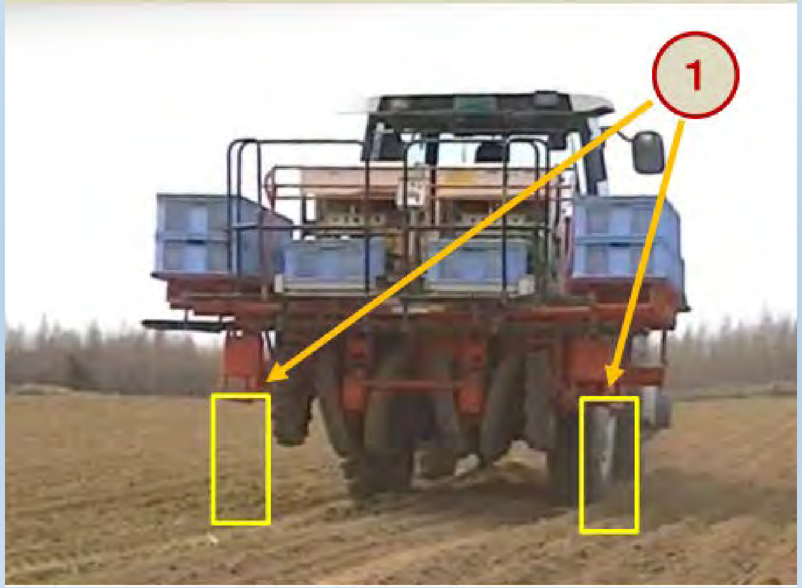
　小豆の収穫作業中に、収穫機に詰まった茎を取り除こうとしたところ刈刃によって負傷した。

詳しい状況

　雨が続いており、収穫が遅れ、次の作業も迫っていた事による焦り。その年の天候により、茎が伸びてしまった事も重なり、刈刃付近に少し動いては詰まり、取っては詰まり、作業が進まない状況。除去作業もエンジンや刃を停止すべきだが、回っていた方が取りやすい為、焦りと効率から安全への意識が欠けていた。

令和６年度の取り組み（６月事故調査）

- 事故調査、聞き取りは機械を取り囲み行った。
- ふと事故に関係のない機械の話となった。
- てん菜移植機に苗や土が詰まった時、取り除く為に機械の下に潜りこむ必要があり、機械が落ちてこないか不安を抱えている。
- ①の位置に安全スタンドがあれば、安心して作業を行うことができる。



令和６年度の取り組み（地区青協）

- 調査に同行したホクレン北見支所職員により、地区青協にて同様のグループワークを行いたい。
- 農作業機について、現場の声をメーカー等に届ける事も農作業安全に繋がる。

- 危険要望１
- 当青年部と同様のてん菜移植機ついての意見
- 危険要望２
- 自動操舵を無人で行うことが危険

令和６年度の取り組み（地区青協）

- ホクレン油機サービス職員

「生産者目線の貴重な意見・要望を得ること
ができた。さっそくてん菜移植機で動いてみよう。」
すぐに改良がスタート、試作機ができた。

- 継続して現場の声を
メーカーへ届けられる
体制作りを行いたい。

危険
回転中、回転軸に触
たり、近づいたりし
いで下さい。
き込まれて死傷する
あります。
安全カバーは必ず取り
で固定して下さい。
・使用前に必ず取扱説明書を
読んでから作業を行なって
下さい。
Koyo
253766
WPP001

危険
HP124
運転中はカバーを外さないこと。手が巻き込まれます。外したカバーは元に戻すこと。
HM129
安全装置について
安全ピン
ジョイント（外）
Vシール（14）
ジョイント（内）
ジョイントワッシャー
ジョイントチューブ

警告

警告
1．回転物に接触するとケガをする恐れがあるので、カバーの下側に手を入れないこと。
2．点検・調整時はエンジンを必ず止めること。終了後はカバーを必ず取付けること。
ロックハンドル
開
閉
1．カバーを閉じるときロックハンドルを必ず閉の位置にすること。
2．ロックが確実にされていないと、落下して危険です。
5T130-84341

注意
ご使用になる前に、取扱説明書をよく読んで安全に作業してください。
注意
運転中カバーをはずさないでください。回転物に巻き込まれケガをする恐れがあります。
安全作業について
❶ご使用になる前に、取扱説明書をよく読み、安全作業を行って下さい。
❷機械が動いている時は、修理、調整を絶対に行わないで下さい。修理、調整は、必ず機械の動力源（PTO動力軸、モーター電源等）を断ってから行って下さい。
❸機械を動かす時には、作業者が所定の位置におり、安全であることを確認してから行って下さい。
❹作業者は、衣服が機械にからみつかないように、適切な衣服を着用して下さい。
❺機械の操作に熟知していない者（子供等）は機械に近づけないで下さい。
❻作業を行う時には、チェーンカバー、ガード等は必ず取付けた状態で行って下さい。
❼本機をトラクターに装着する時には、トラクターのチェンジを中立にし、駐車ブレーキを確実にかけてから行って下さい。
❽PTO軸に取付けるジョイントは、カバーおよび回転防止チェーンの付いているものを使用して下さい。なお、回転防止チェーンは必ず使用して下さい。
❾トラクターより本機を取り外しておく時は、本機が動かないようタイヤのロック等を確実に行って下さい。

警告
1．回転物に接触するとケガをする恐れがあるので、カバーの下側に手を入れないこと。
2．点検・調整時はエンジンを必ず止めること。終了後はカバーを必ず取付けること。
ロックハンドル
開
閉
1．カバーを閉じるときロックハンドルを必ず閉の位置にすること。
2．ロックが確実にされていないと、落下して危険です。
警告
火気厳禁
・火災のおそれがあるので給油するときはエンジンを止めること。
ディーゼル軽油

警告
1. このカバーの中は刃物が回転しており危険なので、手を絶対に入れないこと。
2. ワラ・雑草などの巻付きや詰りを取除くときは、エンジンを必ず止めること。
57691-53151

フェーズ理論

- KY（危険予知）活動やヒューマンエラーに関わる考え方
- 人間には５段階の意識があり、製造業や建設業を始め、安全活動に取り入れられている

- 指差呼称（指差確認）
- 作業前に作業対象や危険物等に対し、指を差し、声に出して確認すること
- 危険感受性を高めて、意識をフェーズⅢに高めることができると言われている

フェーズ	意識の状態
0	無意識・失神
Ⅰ	意識ボケ
Ⅱ	リラックス
Ⅲ	明晰
Ⅳ	過緊張

令和６年度の取り組み

KTC（京都機械工具株式会社）視察研修

工場見学担当者

「構内はフォークリフト等の車両が走るので、シマシマの歩道の上を歩いてください。道を渡る際は左右指差し確認を行って横断してください。」

- 2017年に工場内に安全ラボを設置。
  - 安全への意識を会社・工場が高めている。手を失う等のケガが多かった。

厚生労働省（担当部署）意見交換

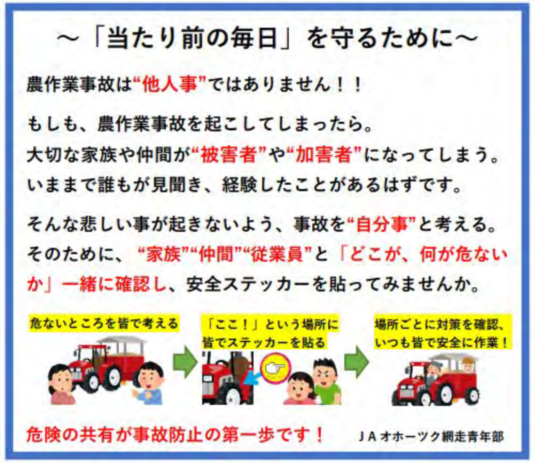
- 農業と他業種の違い。（会社経営と個人経営の違い）
- 農業学校など農業への入り口段階での安全教育に力をいれてはどうか？

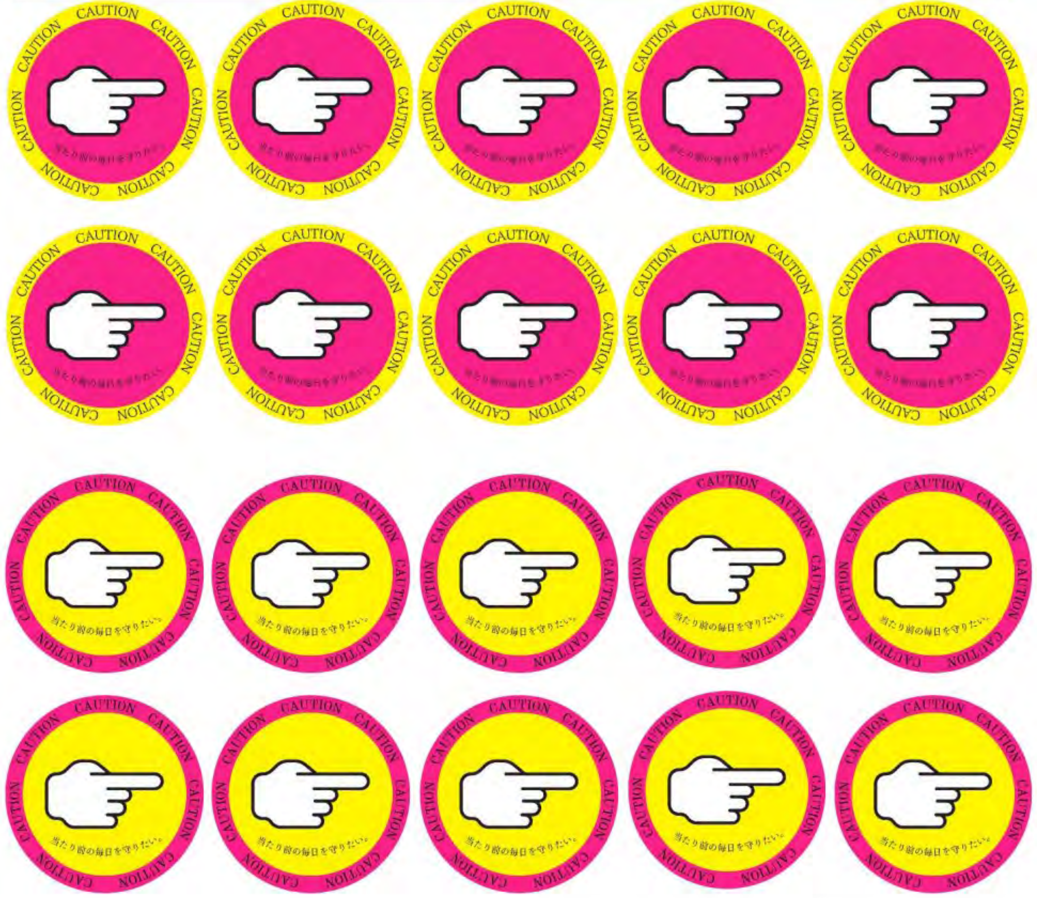
①家族や仲間と貼ったシールの方が、
違和感が有り、意識が向く

②農業現場には作業前に朝礼等での
危険を共有する機会がない

③指差確認による意識レベルの向上

**“家族”や“仲間”と
危険を共有する事が大切！**





＊ホコリを拭き取ってから、作業機等に貼ってください。

ステッカー全戸配布

JAオホーツク網走青年部

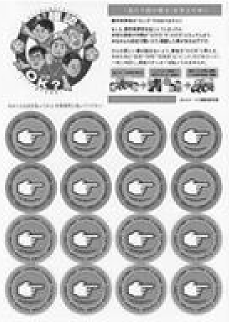
【北見】オホーツク管内のJAオホーツク網走青年部は本年度、農作業安全の意識の浸透を積極的に進めるため、部内に「安全係」を設置し、活動を強化した。安全係や役員が手分けして各営農集団長を巡回し、農作業安全を呼びかけるステッカーを配布。JAの423戸全戸に届くよう依頼した。

ステッカーを配布する青年部役員ら（大空町東藻琴で）

なくせ！農作業事故

貼ろう！安全ステッカー

営農集団長訪ね配布



作製した農作業安全ステッカー

同青年部は活動の基本方針に「当たり前の毎日を守るために」を据えて、農作業安全の強化に力を入れている。昨年12月中旬から下旬にかけ、55営農集団長を訪れ、ステッカーを手渡した。

配ったステッカーはイラストが得意な女性部員がデザイン。A4判カラー刷りで600枚作製した。1枚当たり16枚ステッカーがある。青年部三役が「確認OK?」と呼びかける図柄で、「指差しステッカー」として機械の危険箇所に貼る。黄色やピンクの色合いで目立たせた。

「農作業事故を起こしてしまったら、大切な家族や仲間が被害者や加害者になってしまう」「事故を自分事と考える。そのために家族、仲間、従業員と『どこが危ないか』を一緒に確認し、安全ステッカーを貼ってみませんか」などのメッセージを添えた。

訪問先の一つ、大空町東藻琴末広地区の10戸で構成する第48営農集団には森竜太部長ら役員6人が訪れた。後藤満晴集団長にステッカーを手渡し、「目に付く場所や危険な箇所に貼って、農作業安全の意識を高めてください」と呼びかけた。

後藤集団長は「若い世代の率先した運動で、みんなが意識し行動することにつながっていくと思う。集団内一戸ずつに手渡して、青年部みんなの思いをしっかり伝えたい」と感謝し、激励した。

森部長は「農業者自らが危険箇所を考え、作業機に貼ることで、さらに安全を意識できる。目立たない活動だが、大きく広がってほしい」と力を込める。

事故調査【事故概要】

- 牽引スプレーヤーで防除作業中、給水の為、共同の水くみ場で牽引スプレーヤーに上がり、スプレーヤーへ給水および農薬を混ぜ終え、牽引スプレーヤーから降車。梯子を上方に折りたたんだがロックがかかっておらず頭部へ落下。
- 頭部から流血し、５針縫う裂傷。

事故調査【受傷後の対応】

- 受傷後、以前も経験があり、流血するとすぐに判断。
- たまたま粗品でもらった新品のタオルがトラクターに積んであり、タオルで抑えながら妻へ電話。
- 妻が電話に出ず、自分で運転して一度自宅へ戻った。
- 妻は自宅におり、妻の運転ですぐに病院へ向かったが救急受け入れしてもらえず、病院到着から受診まで１時間程度の待ち時間があった。
- 頭部を５針縫い、そのまま作業へ復帰した。
- ６日後に抜糸し、完治。

事故調査【事故の原因】

①被災者による要因

- 麦類、たまねぎの防除作業も控えており、焦りや疲れが溜まっていた。

②機械・用具に対する要因

- 牽引スプレーヤーに上らずに給水をする方法もあるが、給水ポンプが遅く、作業効率を上げる為、タンクの上から給水および農薬攪拌を行っていた。
- 梯子のロックがかかりづらく、ロックをかけたつもりがかかっていないことが多々ある。
- 管内で同じ機械を使用している農家戸数が少ない。

事故調査【事故の原因】

ロックがかかっていない状態

ロックがかかった状態

事故調査【事故の原因】

③作業環境等に関する要因

- 気温が高く、太陽もまぶしく、上を見上げるのがまぶしい天候だった。

④被災者以外の人に関する要因

- 家族が電話に出られなかった為、自分で一度自宅へ帰る必要があった。
- 家族が家にいたため、すぐに病院に向かうことができた。

⑤安全管理体制等に関する要因

- 実は６年前に同じ事故にあっており、普段はしっかりロックを確認しているがたまたま行っていなかった。
- 作業が詰まっており、焦りやすいスケジュールになっていた。

事故調査【事故防止対策】

①事故後にとられた対策

- 以前にも同じ事故を起こしたので、より気を付けるように。
- 妻にスマートウォッチを与えた。家にいたが家事をしていて電話に気が付かなかったので、いつでも連絡に気づけるような工夫。

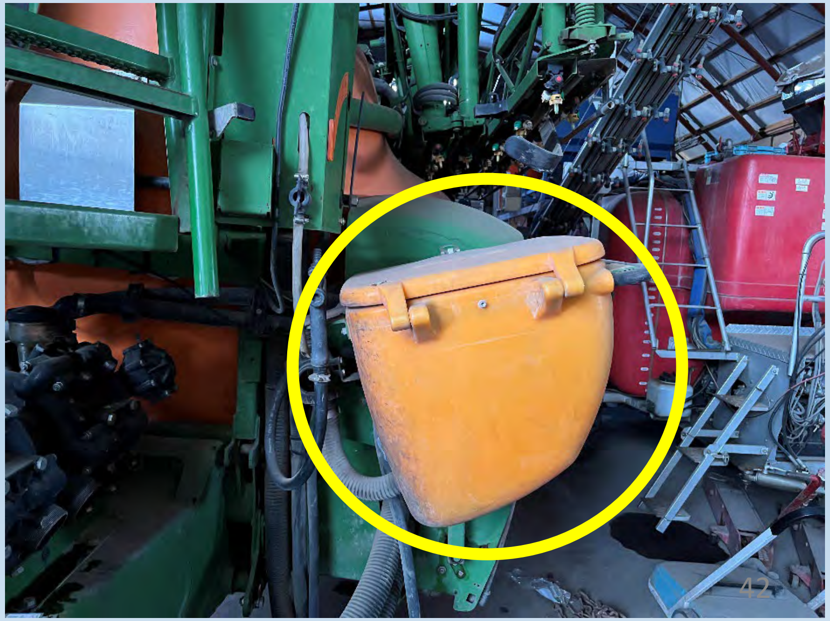
②その他検討している対策

- 梯子にクッション材を付ける、ゴム紐で落ちてこないような工夫。
- 帽子を被って作業していたが、ヘルメット導入を検討。
- 新品のタオルや応急処置セットを常備する必要性を感じた。

事故調査【事故防止対策】

③より安全な機械開発や機械利用に向けた課題

- 梯子がスライド式になるなど、落ちてきてケガをしない仕組みにしてほしい。
- アシストダンパーや電動化し、そもそも落ちてこないような仕組み。
- スプレーヤーに上らなくても給水ができる場所があるが、ポンプが弱く、スムーズな給水ができるようなポンプにしてほしい。



事故調査【その他】

①事故・危険の共有の必要性

- 自分も６年間に同じ事故を起こしたが、父と話をしたら、実は父も同じ事故を起こしていたことがわかった。
- しかし危険を共有されていなかったことも同じ失敗に繋がった。
- 自分のミスを他人に話すのは恥ずかしく、抵抗があるが事故を防止するためには、事故・危険を共有する必要性を感じた。

事故調査【その他】

②実際に事故が起きてしまった時の対処

- 安全講習だけではなく、救急救命講習等、実際に事故を起こした際、目撃した際に対応できるような知識をつけておく必要があると感じた。
- 自分以外でも、周りで事故があった場合、知識を持った青年部員が駆けつけることができれば、助かる命があるかもしれない。
- 救護セット等を作成する。
- 緊急連絡先を調べて共有しておく。
  - 例）家族の連絡先、電柱が倒れてる場合の連絡先等。
  - 農作業事故は人がケガをする以外にも物を壊してしまう場合もある。

事故調査【ステッカーの活用】

一緒に危険な場所にステッカーを貼付させてもらいました。

農業は命を繋ぐ“食”を支える重要な産業
すべての人の「当たり前の毎日」を守る！

ご清聴ありがとうございました